

## 小林産土神社 鎮座地：小林西 1-7-13

天保3年(1832)の勧請で、天照皇大神、応神天皇、住吉大神を祭っている。江戸時代の初期より幕末に至る新田開発により開墾されてできた小林新田(京新田)、岡田新田による農民の守護神として創建され、祭神としての住吉大神の守護により土地の安全と豊作を祈願した。夏祭は南・北地区の太鼓みこし、獅子舞など町中を練り廻って賑わった。特に材木の町として栄えた大正、昭和の時代では賑わいの頂点であった。戦災で全焼したが復旧し、神事も継続され戦後の土地区画整理事業により現在地に遷宮された。

